

見つけよう！ホントの介護 パシフィコで、かながわ介護イノベーション 第13回かながわ高齢者福祉研究大会開催報告

7月8日、パシフィコ横浜（横浜市西区）において、高齢者福祉の最前線で活躍する福祉従事者、介護・福祉を志す学生、社会福祉分野の大学生など2千名を超える参加者による、第13回かながわ高齢者福祉研究大会が開催されました。

この研究大会は、本会老人福祉施設協議会委員が中心となり、神奈川県介護福祉士養成校連絡協議会の協力を得て、総勢49名からの大会実行委員会を設置。研究・技術発表をはじめとした多彩なプログラムの企画と当日の運営を担ってきました。

今年大会の研究発表のエントリーは166題。人材育成や業務改善のテーマを筆頭に、認知症ケア、施設でのターミナルケアの取り組みといった、



第13回大会ポスターには「パルロ」も介護ロボット登場



研究発表はこの12年間で延べ1,765題。発表後の休憩時にも、一般参加者からの質疑応答や名刺交換が行われていました

多職種連携介護の専門性を発揮した事例も数多く報告され、居宅介護支援部門の発表も年々増加してきました。

さらに、介護現場で展開される技術を知ってもらうことを目的とした、今年で4回目となる介護技術発表では20組がエントリー。「口腔ケア」「食事介助と介護食の展示」「移動介護」のほか、2回目の取り組みとなる「認知症ケア」を実施し、会場にはNHK横浜放送局の取材も入り、夕方のニュースでその様子が放映されるなど、技術発表という新たな取り組みに多くの関心が寄せられました。

介護技術の発表者は、手順や配慮

点をまとめたシートを事前に作成し、ケア場面での声掛けのタイミングや話題の選び方、声の大きさなどが日常の実践と変わらぬ会場全体に伝わるように、ピンマイクを使用するなどして発表環境を整えました。

食事介助・展示部門では、彩り豊かに配膳された食事の展示も行われ、参加者からは、「メニュー表がついて分かりやすい」「食欲がわいてくる！」などの感想が聞かれました。



(上)口腔ケアでは、食事前の「声掛け」を含めた個別ケアを披露
(左)食欲がわく！介護食の展示（介護技術発表）

一方、研究発表と同時に開催した施設紹介・就職相談コーナーでは、ハローワーク横浜と本会福祉人材センターが連携。94法人101ブースが出展し、600人の県内を中心とした介護福祉士養成校の学生の参加を得ました。今大会より、本企画参加施設を対象に、選ばれる施設にな

るための施設PRのポイントを学ぶ事前研修を実施し、参加した学生からは「施設の様子が写真説明で分かりやすかった」「新人職員研修や有給休暇の使い方などを若い職員の方が説明してくれた」「施設見学に行くことにしました」などの感想が聞かれました。



(上)介護福祉士養成校の学生等600人が参加（施設紹介・就職相談）

(右)終日にぎわう企業協賛ブース

さらに会場内では、協賛していた35社39ブースの企業も展示会を終日実施し、参加者からの質問に答えながら、介護用品等の商品説明を行う姿が目立ちました。

本大会における実行委員会委員の方をはじめ、多くの高齢者福祉従事者や教育関係者の協力と熱意に感謝するとともに、本会ではこれからもさまざまな機関・団体等と連携し、高齢者福祉・介護福祉の最前線を発信していきます。

（社会福祉施設・団体担当）